

Ⅱ. コンピテンシー教育課程改革の事例

(1) ナショナルカリキュラムの

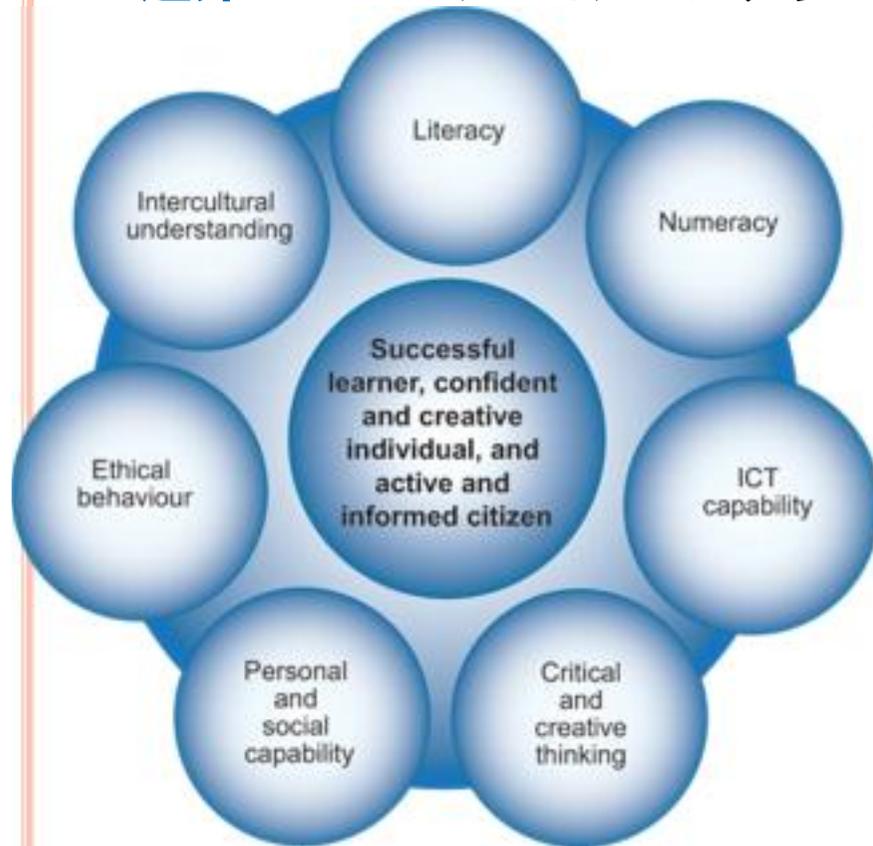
体系的な開発: オーストラリア

① 汎用的能力 (general capabilities) の設定

メルボルン宣言(2008)

カリキュラム評価機構(ACARA)の設立

連邦レベルでナショナルカリキュラムの構築



メルボルン宣言で示された学校教育の目標

- ① 公正さと卓越性のいっそうの追求
- ② 成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で知識ある市民

汎用的能力の構成要素

- ① リテラシー
- ② ニューメラシー
- ③ ICT技能
- ④ 批判的・創造的思考力
- ⑤ 倫理的行動
- ⑥ 異文化間理解
- ⑦ 個人的・社会的能力

②3次元のカリキュラム構成

汎用的能力(general capabilities)

- ①リテラシー ②ニューメラシー
- ③ICT技能
- ④批判的・創造的思考力
- ⑤倫理的行動
- ⑥異文化間理解
- ⑦個人的・社会的な能力

教科ごとの学習領域

英語、数学、科学、
人文科学と社会科学
芸術、言語、保健体育、ITC

学際的カリキュラム優先事項

- ①Indigenous history
- ②Asia ③Sustainability

*汎用的能力

- ・概念の整理
- ・下位のカテゴリーの設定
2,4,6,8,10年、あるいは、2,6,10年次で修了時点の到達目標の設定
- ・教科ごとで育成する内容を検討

③ウェブベースのカリキュラム



・教科等の内容
 内容の説明(content descriptions)
 詳細(curriculum elaborations)
 に具体的に提示

・汎用的能力を扱う
 該当箇所にアイコンを提示

各三要素からの連
 続的・継続的な教
 育・学習の把握が
 可能

- リテラシー 
- ニューメラシー 
- ICT技能 
- 批判的・創造的思考力 
- 個人的・社会的能力 
- 倫理的行動 
- 異文化理解 

・到達目標の設定、及び、到達した子どもの作品の提示

④体系的なナショナルカリキュラムの設計

ナショナルカリキュラムの開発・実施・評価プロセス

○開発の段階

1段階:英語、算数・数学、科学、歴史 2段階:地理、言語、芸術 3段階:その他の領域

○構想・執筆・実施・評価と再検討の4つの段階

構想 カリキュラムのアウトラインの開発

執筆 アウトラインに沿った具体的な内容の開発

内容領域のスコープとシーケンス、達成スタンダードの設定、作品例の収集

実施 説明、教材、教師の研修機会の提供

評価と再検討 データの分析、教師や諸団体との協議、国際的な比較

○構想:計画→調査研究→草案→検討→協議→意見聴取→報告→草案修正→採択

計画 カリキュラムの開発プロセスのデザイン、スケジュールや時間の管理計画

調査研究 州、管轄区、国際的なカリキュラムの比較検討

草案 主要な論点の整理と方針文書の作成

原理、目的、目標、知識・理解・スキル、汎用的能力、優先事項、構造・・・

レビュー 諮問委員、国・国際的な専門家によるレビュー

協議 委員会等での検討

意見聴取 フォーラムの開催、オンラインでの公開

報告 フォーラムからのフィードバック、意見聴取の報告書

草案修正 フィードバックをもとにした草案の修正

採択 カリキュラム委員会の受諾、理事会での採択、ホームページでの公開

○執筆:計画→調査研究→草案→検討→協議→意見聴取→報告→草案修正→採択

(2) 州カリキュラムに対応した 評価システム: カナダ・オンタリオ州

① 21世紀型スキルと教育課程

○ 21世紀型スキル

21世紀型スキルの定義と育成に向けた
プロジェクトが進行中

○ 学習スキル

責任感、自己管理能力、コラボレーション
学習への積極性、自律性

○ オンタリオ州カリキュラム

内容スタンダード

パフォーマンススタンダード

4カテゴリ(知識と理解、思考、コミュニケーション、適用能力)

⇒ 21世紀型スキルの育成に焦点化された教育課程には至っていないが、
基本的には資質能力の育成をめざした教育課程といえる



②世界が注目する教育戦略

○前政権の標準化施策(1995年～2003年)

州カリキュラム改革と州統一学力調査の導入

学力及び学力の到達度の明確化

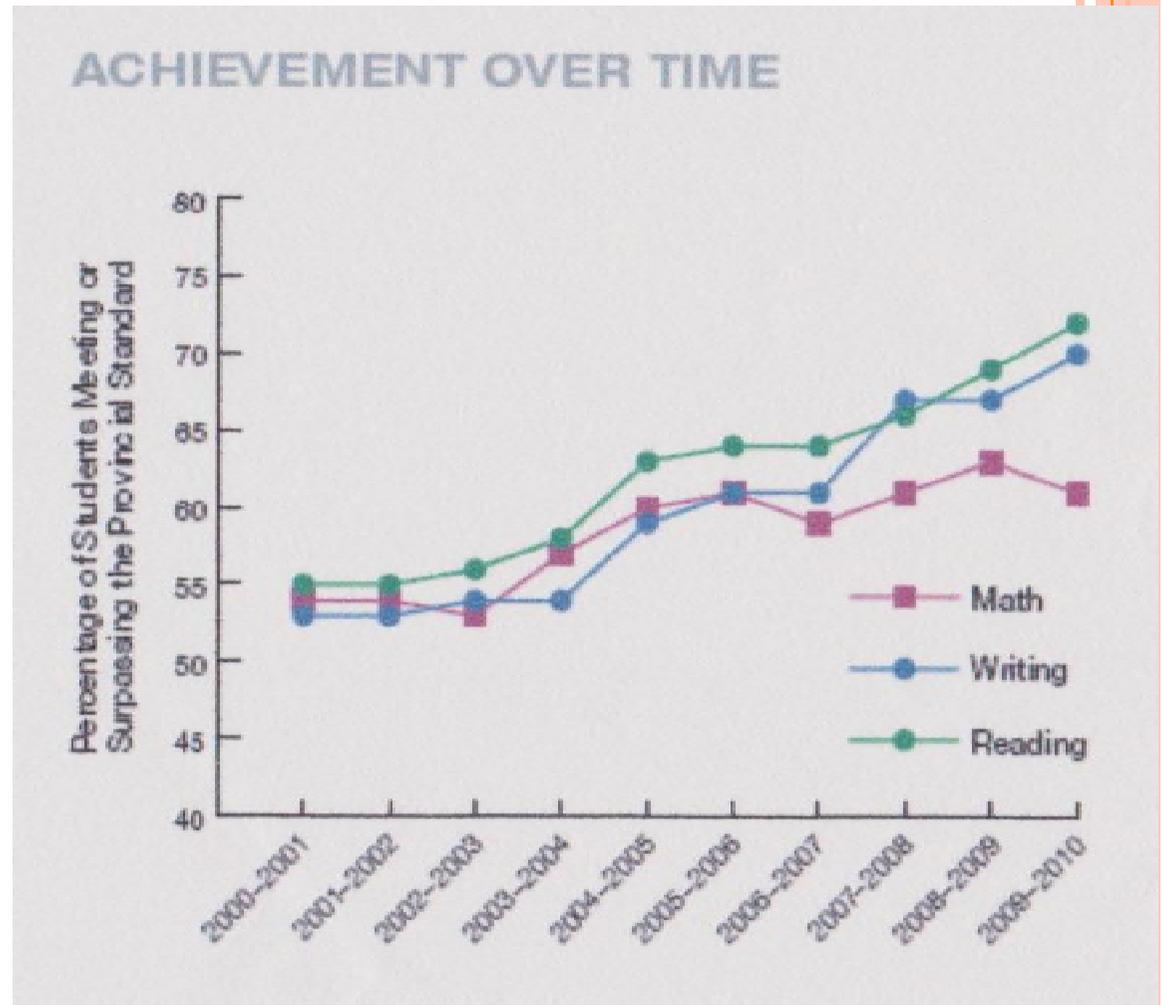
到達度(レベル1～4)を把握

図 州学力調査の経年変化(第6学年)

○現政権の教育戦略
(2003年～現在)

⇒継続的な学力向上
レベル3に到達した
児童の割合

- ・明確な目標の設定
- ・教師の指導力向上戦略



③オンタリオ州カリキュラムの構造

○内容スタンダード:児童生徒が身に付けるべき「力」を記述

- 一般的な期待

例:第6学年次終了時点までに、児童は、意味を構成する複数の戦略を活用しながら、多様な文書、図、情報のテキストを読み、理解していることを示せるようになるものとする。

- 具体的な期待

○パフォーマンススタンダード:

- 「知識と理解力」「思考力(批判的・創造的思考力の活用と過程)」

- 「コミュニケーション力(多様な形態での考えの伝達)」

- 「活用能力(多様な文脈の中やそれらの間を関連づける知識とスキルの活用)」

- 到達度をレベル1~4で階層的に設定

- レベル4:州の基準を超えるレベル

- レベル3:州の標準を示す(すべての児童生徒が到達すべき知識・技能のレベル)

- レベル2:州の基準に近づいているレベル

- レベル1:州の基準よりもはるかに低いレベル

④ 評価システムの構築

- 学力到達度を把握するために**州統一学力調査(EQAO)**を導入(1996年)
(全国学力調査の導入は2007年)
- 州カリキュラムと連動した**経過報告書、成績表**の使用
- 研修を通じた、各教員の評価の共通化
- EQAOでは、州統一学力調査、中等学校識字テストの結果と21世紀型スキルとの対応関係について分析を行っている。

⑤ 言語力・数学力向上局(literacy numeracy secretariat)

- 約100人の職員で構成
- 教育委員会、学校に対し、学習指導上の介入支援

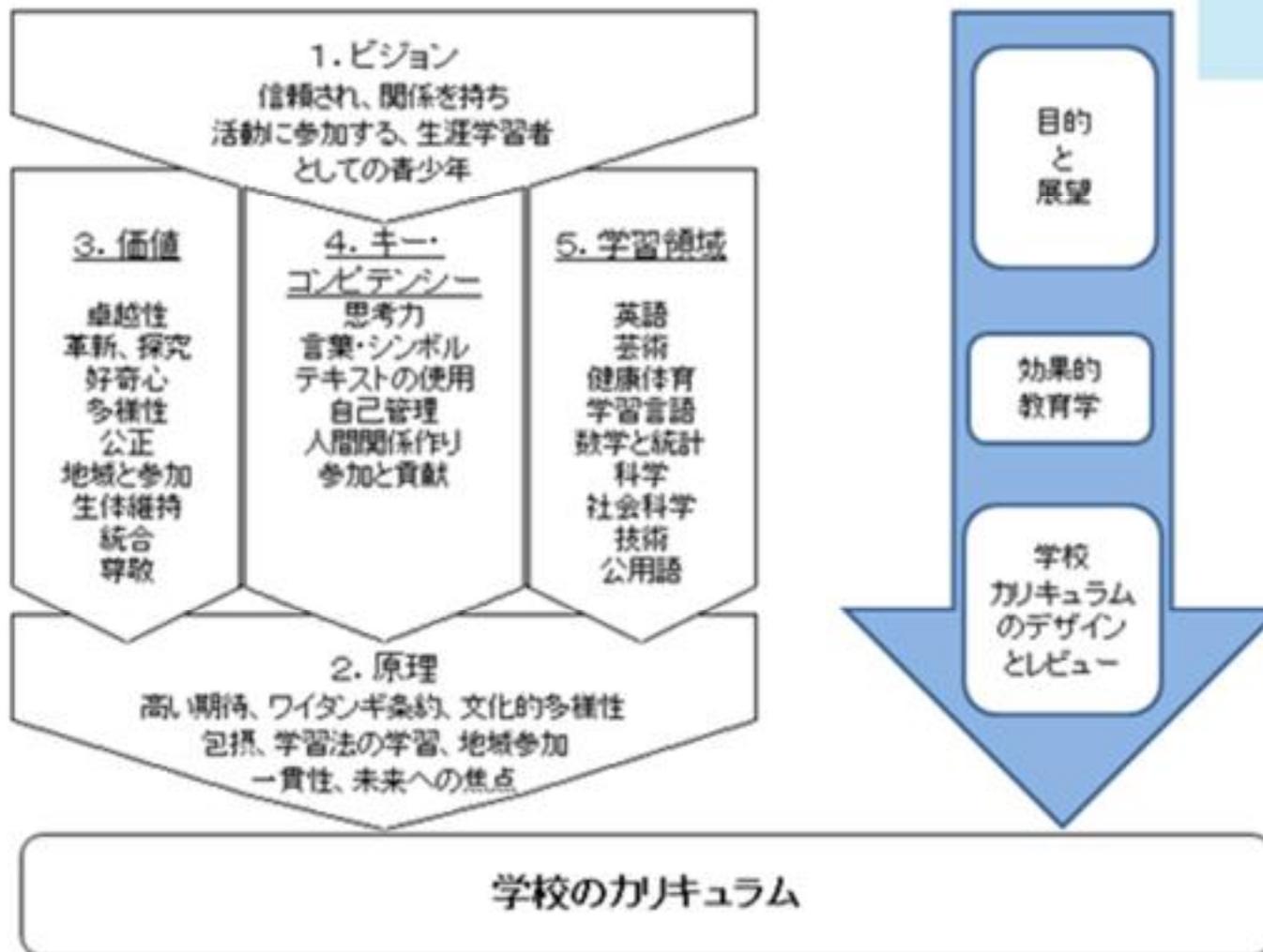
(3)教育の内容・方法・評価の革新をめざして:ニュージーランド

①コンピテンシーに基づくナショナルカリキュラムの設計

DeSeCoに参加



図 ニュージーランドのカリキュラム



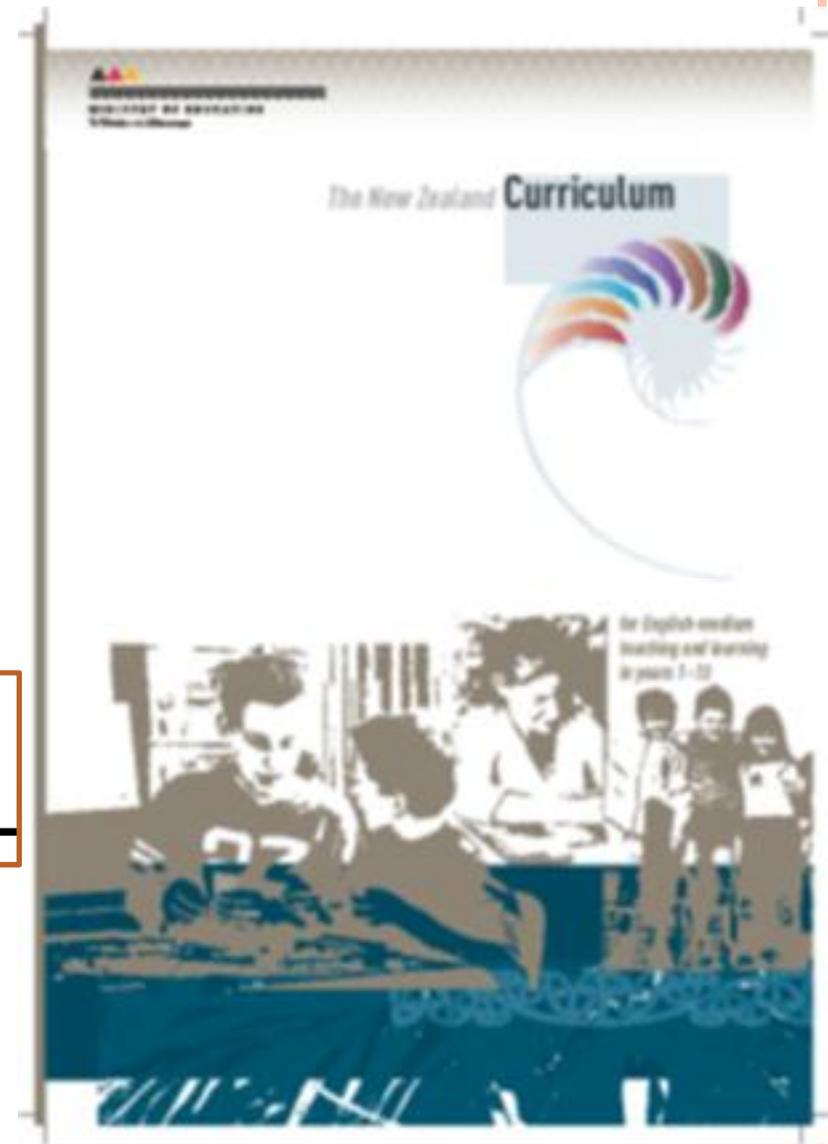
②ナショナルカリキュラムの前半(理念)と後半(教科)をつなぐ課題

<前半:理念>

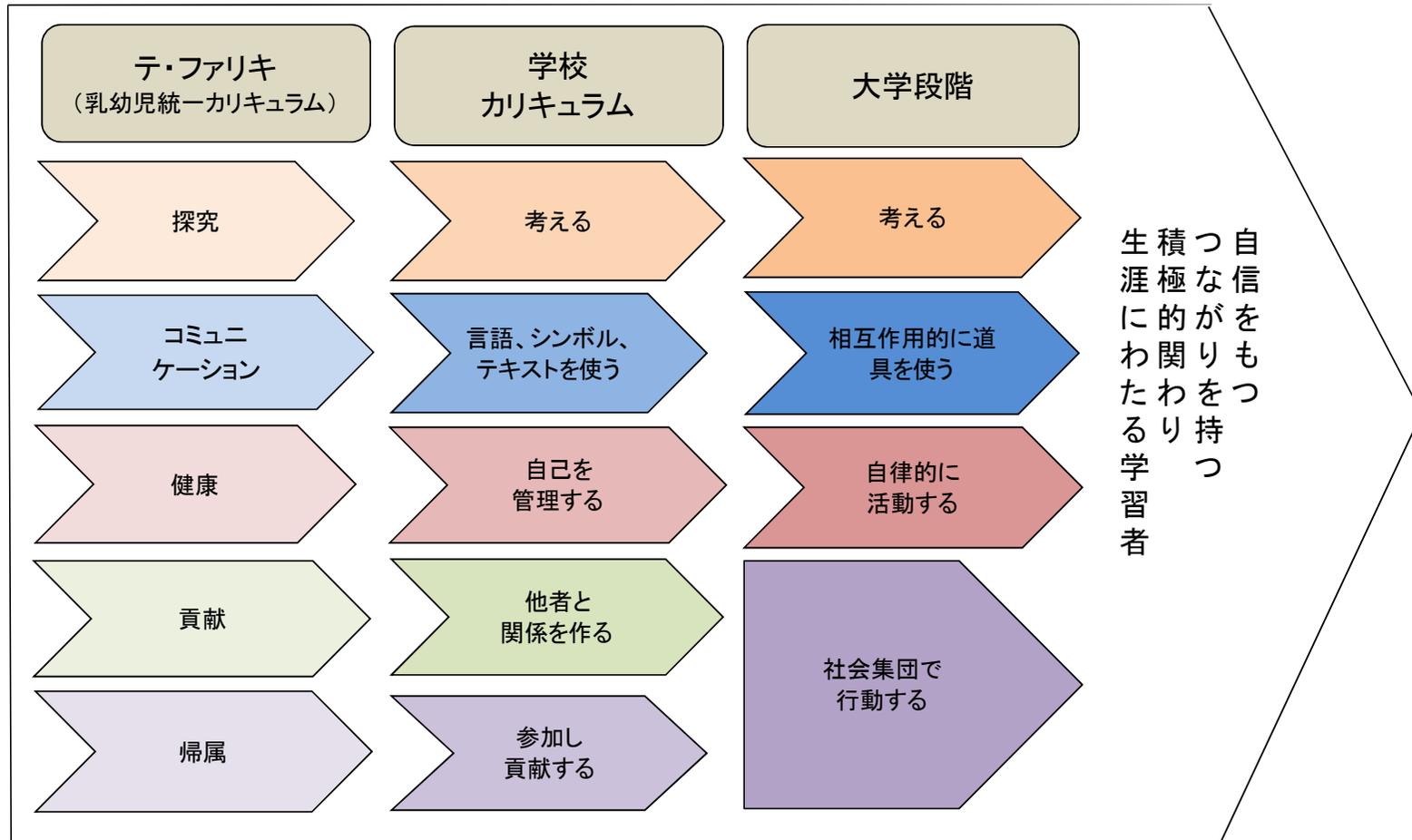
はじめに、目的と範囲、概要
ビジョン、原理、価値
キーコンピテンシー
学習領域、効果的な教授法
学校カリキュラム:デザインと評価
教育法とカリキュラム
学校理事会の要件
年齢とカリキュラムの段階

<後半:教科>

レベルごとの到達目標のチャート
英語、芸術、保健・体育、言語学習、
数学・統計、科学、社会科学、テクノロジー
*各学習領域=1頁



④コンピテンシーの育成をめざした就学前、学校、大学の連携



***キー・コンピテンシーの領域間の連携を考え、就学前段階、学校段階、
大学段階でのコンピテンシーの段階的な育成が構想されている。**